

一令和元年12月20日発行一

公益財団法人 古代学協会だより



理事長交替ご挨拶

このたび、六月十四日をもちまして任期満了に伴い公益財団法人古代学協会の理事長を退任いたしました。後任には臘谷壽が就任いたしましたので、これまで同様、御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

今後は引き続き財団の名譽理事長として尽力してまいる所存でございますので何卒今後とも御支援を賜りますようお願い申しあげます。

名譽理事長 大坪 孝雄



大坪孝雄名誉理事長

このたび、大坪前理事長の後を受けて、公益財団法人古代学協会の理事長に就任いたしました。

微力ではございますが財団の発展のために努力する所存でございますので、これまでと同様御支援と御指導を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

理事長 臘谷 壽

古代学協会は昭和二十六年に設立、令和三年には創立七十年を迎える。昭和三十二年、財団法人として認可され、

初代理事長は梅田良忠（関西学院大学教授）。

その後五人の理事長を経て、大坪前理事長は九代目の理事長であった。

大坪前理事長は、昭和三年十二月生まれ、東京大学経済学部卒業後、本州製紙に入社、新王子製紙と合併し、王子製紙（株）代表取締役会長を勤められた。角田文衛先生成と同じ成城高等学校ご

出身という、ご縁もあって平成十三年から理事、平成十七年から会長代行、平成十九年から会長に任せられ、角田文衛理事長が高齢を理由に退かれた後、平成十九年から理事長に就任。事業規模は縮小しつつも、堅実な財団活動を主導し、平成二十五年の公益法人化にはことのほか尽力された。

臘谷理事長は、昭和十四年三月、新潟県生まれ。同志社大学文学部を卒業後、平安博物館に入られ退職後は同志社女子大学教授。当協会では平成三年から評議員。研究の専門は平安時代である。



大坪理事長感謝の会（令和元年6月14日）

臘谷壽 新理事長に聞く（一）



たぶん新潟でも四回ぐら

引つ越したと思いま

す。父親が

営林署に勤

めていたか

ら前橋営林

局（当時）

の管轄内で

動くわけ

で、異動が

あるたびに

生まれたところ、小さい時のことは全く覚えていません。というの

は、引っ越しがとても多かったので

す。小さい子どもにとっては移動が多いと記憶に残らないようです。生

まれは新潟県須原（現魚沼市）とい

うところらしいですが、記憶がない

ですね。同じところに長期間生活す

ることで記憶に残るもので、引っ越

しの多かつた私は、小さい時の記憶

がまったくないのです。須原という

ところがいちおう出生の地になつてい

新潟でのことで、よく覚えているのは、小さいときから耳が聞こえにくくて、それを父親が心配して、その時には村上に住んでいたのですが、長岡に耳鼻科の良い医者がいるといふので、母親に連れられて長岡まで汽車に乗って通っていました。

長岡というところは油田があり、長岡大将山本五十六の出身地なので、アメリカに狙われた、アメリカは山本五十六をとても恐れていた、と聞いてました。こういう話が地元ではあったようですね。

終戦の年に小学校に入つたのですが、この年から名称が国民学校初等科から小学校に変わりました。入学した年には片仮名を習いましたが、一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪がとても多かつたですよ。軒近くまで積もつてるので、部屋に陽が入らず、その代わり夕刻になつても雪の反射で室内が明るかつたように記憶しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が

とても多かつたですよ。軒近くまで

積もつてるので、部屋に陽が入ら

ず、その代わり夕刻になつても雪の

反射で室内が明るかつたように記憶

しています。

が、この年から名称が国民学校初等

科から小学校に変わりました。入学

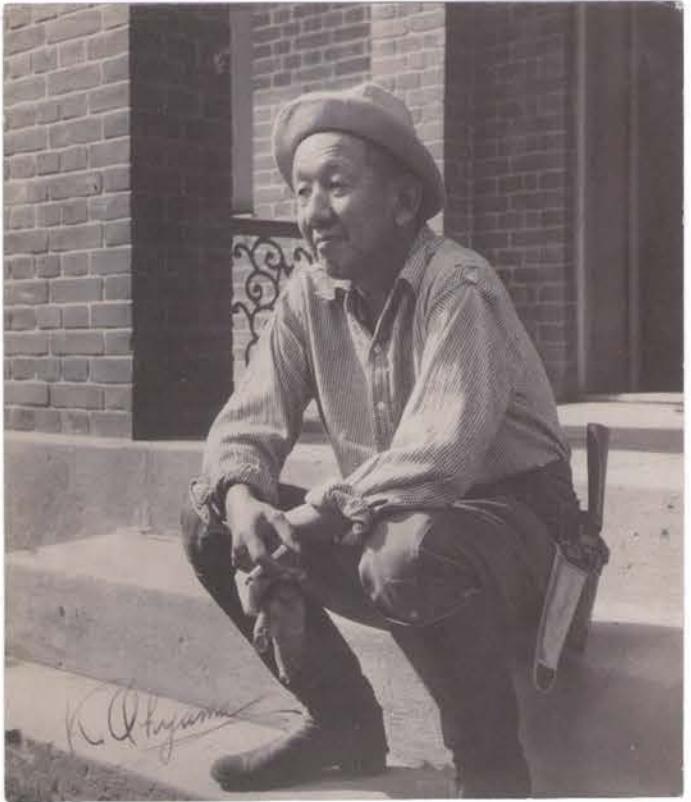
した年には片仮名を習いましたが、

一年下の学年からは平仮名でした。

小学校の頃のこと、どんな校舎で

とかいう記憶は全くないです。小

学校の三年か四年生の時に福島県の雪は少なくなつたけれど、昔は雪が



大山柏博士ポートレイト

本写真は史前学者で大山史前学研究所を主宰していた大山柏博士（一八八九—一九六九）のポートレイトである。栃木県那須野が原の大山農場に建設された煉瓦造洋館（明治三十八年頃竣工、平成七年栃木県指定有形文化財指定）の玄関先で撮影された。撮影時期は、同一原版で「昭和十七年九月」^{〔一〕}の揮毫がある写真が確認されていてことから戦前と考えられる。縦十六・六cm、横十四・三cmで、左下にはペン書きで「[K.Ohyama]」のサインがある。

農作業の合間に右手袋を外しての
一服。携行用ナイフと鉈を腰から下
げた長靴という井出達。ギンガム
チエックのシャツをカジュアルに着
こなす姿から、元職業軍人（依頼予
備役）で貴族院議員という肩書を想
像するのは難しい。だが、遠くを
見つめる鋭い眼差しはカントリー・
ジエントルマンそのものである。

写真は機関誌『古代文化』の連載
企画「私の履歴書」の挿図で使用さ
れた。昭和三十二年（一九五七）八
月に発刊した機関誌『古代文化』は、
機関誌『古代學』の算報で、会員や
会友の現状を探めるサコントとしての

立しようとするためには、優れた考古学者の伝記に注意し、先学の歩んだ歴史を深く検討する必要性を力説した。角田文衛はタルルグレンからウイーン大学のハンチャール(HANČAR FRANZ, 1893~1968)夫妻や、タルルグレン自身のポートレイトを譲り受けている。帰国後、日本国内外の古代学者のポートレイトを収集し、掲示する構想をこの時期持つたのではないか。

書簡を受け取つてから十年後の昭

和三十三年（一九五八）、角田文衛は機関誌『古代文化』への寄稿を通じて宿願のポートレイトを入手することができた。このポートレイトは戦前に撮影されたものであるから、元大山史前学研究所所員や関係者から大山柏自身が写真を入手し、新たに原版を作成したものと思われる。

昭和四十三年（一九六八）、財團法人古代學協會は購入した旧日本銀行京都支店を改装し、平安博物館を開館させた。平安博物館本館一階の

指導など、短文ながら学史的に重要な内容を含む。

大山柏と角田文衛博士の接点は、昭和四年（一九二九）に大山史前学研究所が史前学会を組織し、学会に入会した時まで遡る。昭和六年（一九三二）旧制成城高等学校に入学し、地歴研究会に在籍していた角田文衛は、地歴館の竣工に併せて「郷土史前學の研究に就いて」を発表、「史前學は當時の事實事物に基て史前文化を研究する科學である」という一文は、大山柏が提唱した史前学と同じであり、当時の史前学への傾倒振りが伺える。

本写真は史前学者で大山史前学研究所を主宰していた大山柏博士（一八八九～一九六九）のポートレイトである。栃木県那須野が原の大山農場に建設された煉瓦造洋館（明治三十八年頃竣工、平成七年栃木県指定有形文化財指定）の玄関先で撮影された。撮影時期は、同一原版で「昭和十七年九月」の揮毫がある写真が確認されていることから戦前と考えられる。縦十六・六cm、横十四・三cmで、左下にはペン書きで「K.Ohyama」のサインがある。

農作業の合間に右手袋を外しての1服。携行用ナイフと鉛を腰から下げた長靴という井出達。ギンガムチェックのシャツをカジュアルに着こなす姿から、元職業軍人（依願予備役）で貴族院議員という肩書を想像するのは難しい。だが、遠くを見つめる鋭い眼差しはカントリー・ジエントルマンそのものである。

写真は機関誌『古代文化』の連載企画「私の履歴書」の挿図で使用された。昭和三十二年（一九五七）八月に発刊した機関誌『古代文化』は、機関誌『古代學』の算報で、会員や会友の現状を示す欄として役割を担っていた。「私の履歴書は機関誌『古代文化』の第三号から連載を開始。古代学者の学問の遍歴を原則一回読み切りで綴つてもらう企図で、初回は西田直二郎博士、大山柏は第七回に「私の考古学遍歴」を寄せた。陸軍中央幼年学校本科時代、考古学者の中澤澄男（一八六八～一九四五）から「有史以前」という講義を受けて考古学に興味を持ったことや、大正十二年（一九二三）のドイツ留学でシュミット（HUBERT SCHMIDT, 1864～1933）から受けた指導など、短文ながら学史的に重要な内容を含む。

大山柏と角田文衛博士の接点は、昭和四年（一九二九）に大山史前学研究所が史前学会を組織し、学研究会に入会した時まで遡る。昭和六年（一九三一）旧制成城高等学校に入学し、地歴研究会に在籍していた角田文衛は、地歴館の竣工に併せて「郷土史前學の研究に就いて」を発表、「史前學は當時の事實事物に基て史前文化を研究する科學である」という一文は、大山柏が提唱した史前学と同じであり、当時の史前学への傾

また、昭和八年（一九三三）七月九日消印の山内清男博士（一九〇二～一九七〇）筆葉書には、「史前學會は御自身御出かけになれば、喜んで陳列室に案内して呉れるでせう。」

別に御紹介申し上げなくとも非常に
気持よく行くだらうと思ひます」と
あることから、大山史前学研究所を

配属され、旧満州国の国境警備に当たつた。昭和二十一年（一九四五）十月にはロシア連邦イルクーツク州タシエット地区第二収容所に収容、三年に亘る抑留生活を経て、昭和二十三年（一九四八）七月末に祖国の土を踏んだのであった。

（略）
角田文衛博士遺贈資料に保存されて
いる。それは帰還の挨拶とともに、
古代学研究を再開するための協力依
頼であった。この封書への返信が、

便箋用紙四枚で、無事に帰還したことへの労いとともに、依頼への回答と近況報告が綴られている。

には至らなかつた。角田文衛が大山柏のポートレイトを所望したのはなぜか。その理由はイタリア留学中に訪れたフィンランドで指導を受けたヘルシンキ大学教授のタルルグレン (AARNE MICHAEL TALLGREN, 1885 ~ 1945) に感化されたためである。タルルグレンの書斎壁面には各国考古学者のポートレイトが飾られており、それに目をやりながら、新しい考古学の体系を樹

北側廊下は「学者廊下」と命名され、膨大な世界の古代学者のポートレイトが掲示されていた。角田文衛は「我々は、先学からの学恩を尊重し、謙虚にそれを受け止めると共に、真摯にこれを超克し、明日の為に新しい学問を築き上げねばならない。自からの研究成果に酔い、慢心するようなことがあれば、学者として失格である。学者廊下を通る度に我々は自から襟を正し、己の学者としての態度を深刻に反省するのである」と、学者廊下の意義を説明している。

本ポートレイトかどうかは確証を得ないが、史前学の提唱者である大山柏もまた、学者廊下から平安博物館の若き研究者達に睨みを利かせていたものと想像される。留学中、タルルゲレンから示教された角田文衛の学史尊重の姿勢を、今日に伝える一枚といえよう。

(1) 阿部芳郎『失われた史前学』(東京、岩波書店、二〇〇四年)

(2) 古代文化研究会編『創刊のことば』(『古代文化』第一巻第一号、京都、一九五七年)

(3) 西田直二郎『私の履歴書①古代史への道』(東京、岩波書店、二〇〇九年)

(5) 大山柏編「會報會員氏名（其四）」
 （『史前學雑誌』第一卷第五号、東京）

(4) 大山柏「私の履歴書（7）私の考古学漏歴」
 （『古代文化』第二卷第六号、京都、一九五八年）

(3) 興味を覚えたころ」（『古代文化』第一卷第三号、京都、一九五七年）

もうひとつのおとぎ話「令和」——桓武天皇の冗談——

同志社女子大学教授 山田邦和

所収の逸文)である。

本年五月一日、新しい天皇が即位され、元号も「平成」から「令和」に改められた。それまでの元号はすべて漢籍からの集字によって成立していたのに対して、今回の「令和」は国書である『万葉集』を出典としており、その点でも関心を集めている。

万葉集の話はともかくとして、日本史学の研究者の多くは「令和」という文字を見ると自然と「令レ和」と返り点を振つて、「和令ム」と読んでしまうのではないかろうか。ただ、かといって「和令ム」という用法の事例がどれくらいあるかというと、少なくとも私にはすぐには思いつかなかつた。そこで、とりあえずは日本古代の正史である『六国史』に限つてこの語を検索してみることにした。すると、いささか驚いたことに、「和令ム」という言い方が出てくるのはたつた一ヶ所しか存在しなかつたのである。それは、『日本後紀』卷三の延暦十四年（七九五）四月十一日の

戊申の曲宴。天皇誦古歌曰
以迄にし弊能、能那何浮渺知。阿
良多米波 阿良多麻良武也、能那
賀水流 弥知。勅二尚侍從三位
百濟王明信令和レ之、不得レ
成焉。天皇自代リテ和シテ曰。記美
己蘇波、和主黎多魯羅米、爾記多
麻乃、多和也米和礼波、都禰乃詩
羅多麻。侍臣称「万歳」。

私はこれを見てまたまた驚いた。
美はこれは、平安京を造営した桓武
天皇の冗談として有名なシーンなの
である。延暦十三年十月に平安京遷
都が無事に完了し、翌年春に桓武天
皇は貴族・官人を集めて宴会をおこ
なつた。そこで酔つ払つていい気分
になつた桓武天皇は、尚侍の百濟王
明信に古い歌を投げかけたのである。
これは「いにしえの 野中古道 改
めば 改まらんや 野中古道」、つ
まり「昔からの野中の古い道は、変
えようとしても容易く変えることが
できないものだね」という何の変哲

隨想十七

博物館にも「新しい波」

時代にそぐわぬ陳列本位

角田文衛

日本において、近代的な意味での博物館が設置されてから、かなり長い年月が経過した。いうまでもなく、それは明治十五年の東京帝室博物館の創設に始まるものであるが、特に終戦後は、各地に博物館やこれに類する施設が続々と設置され、質的にも量的にもようやく先進国の水準に近づいてきたといえる。

期的であったのは、昭和二十六年十二月の博物館法の制定であった。国立博物館が、文化財保護法に基づく施設とされ、博物館法の適用外におかれたのは残念であったが、ともかくこの博物館法によつて、日本の博物館には一定の性格が与えられ、法の規定する基準に達した博物館は、登録博物館として多少とも特典が認められるようになつた。この法は、上から博物館の性格を規定したというよりも、むしろ現実における、多くの博物館に通じてみられる性格を明確にしたものである。つまり、そこでは、博物館は社会效益機関であるという性格が第二に押し出されているのである。

には研究よりも展示と古物の保存のほうがより高く評価されていることは疑いがない。だが、研究と展示とはつきり区別することは、社寺の宝物館ならともかく、現実に要求される博物館活動としては不適切であ

るばかりでなく、学問的意味においても、それは不便ですらあるのである。その点現行の博物館法には若干改定の必要があるようみうけられる。

最近の日本におこつた新しい傾向の一つは、博物館法の枠外にはみ出した博物館ないし、これに類する設備が現われるようになったことである。そのよい例は、昭和三十八年に改組、設置された京都府立総合資料館であろう。これは図書館であり、古文書館であり、展示場としての総合的な性格が顕著であつて、従来の博物館や図書館の概念では割り切れない多様性を帶びており、その点で社会教育や学術研究に著しく寄与している。

また一昨年開館された京都の平安博物館もその一例であつて、ここでは博物館法による学芸員制に対して教授、助教授制がとられ、研究博物館として研究に重点が置かれている。展示の方は、研究成果を一般に公開するという意義が与えられており、また施設を利用しての高度な学術講座が一般に公開されている。この種の研究博物館は特別珍しいものではなく、特にドイツなどにおいては早くから実施されているものである。日本多くの博物館において学芸員に多大の負担を与えていたのは、年数回に及ぶ特別展覽会であるが、研究博物館においては特別の研究成果を開するという場合のほかは、特別展

「讀賣新聞」 昭和四十五年六月十四日
(當時平安博物館長)

覧会は催されず、研究員のエネルギーはもっぱら調査、研究にそがれてい
る。こうした研究博物館や総合資料館は、今後の二つのあり方を示すものとして注目に値するものといえよう。
展示に重点を置くか、研究を主とするか、あるいは図書館と博物館を兼ねた施設とするかは、それぞれの博物館の使命や社会的要請によつて自由であつてよい。ただ確実なのは、博物館法に規定するような画一的な博物館では、現代の複雑な社会的要請にそぐわなくなつて来たということである。のみならず、文化財保護法に基づく国立博物館という特殊な存在が、博物館のあり方や事業活動に若干の混乱をもたらしているという現状ですらある。特に研究を主とする博物館の場合、博物館法によって展示上の特典は与えられはしても、研究上の特典（たとえば科学研究助成金）が与えられないという悩みが多い。この際、ミュゼーオンやビブリオティーカ（図書館）の原義に立ち返つて、この種施設に再検討を加え一方では現代における複雑な社会的要請に応じて、現行の博物館法や図書館法、また文化財保護法に抜本的な検討を加え、全国的にそれにふさわしいミューズの女神の花園を展開することが望まれるのである。

明信という女性、当時は右大臣藤原継繩の妻となっていたのだが、もどかしい内容の歌なのであります。見ただけでは桓武天皇の真意はわからぬ。ただ、実はこの百済王部王（山後紀）の恋人であつた。それは明信の子の藤原乙叡の墓伝に「母、尚侍百済王明信、帝の寵渥を被る」（日本後紀 大同三年六月三日条）と記されていることに示唆されている。

明信は百済王という名からわかるように、朝鮮半島の百済からの渡来人の流れをひいた人物であつた。桓武天皇は母の高野新笠もまた百済系の血を引いていたことから、若い頃からこうした渡来系氏族に親しんできたのであろう。その後、山部王と別れた後の明信は青年貴族であつた繼繩と結婚し、王は即位して桓武天皇となつたのであるが、この兩人はなお厚い信頼関係を保つていたのであり、天皇は明信を後宮の最高責任者にまで抜擢しているし、その夫の継繩をも右大臣にまで出世させている。

要はこの話は、桓武天皇が昔の恋人に「私があなたに抱いていた昔の恋情、それは今でも変わってないんだよ」ということを言つて戯れかつてゐるのである。さらに天皇は彼女に「口せんば（口くちも）」と

けているのは、返事はどうなの?」と畠み掛けている。しかし、さしもの辣腕の女官であつた明信も万座の中での天皇の悪ふざけに慌ててしまつてあげよう。あなたもこういう風に言わなくちゃダメなんだよ」といふことで「君こそは、忘れたるらめにぎ玉のたわやめ我は、常の白珠(あなた様の方こそ、もう私のことなんかを忘れてしまわれているのでしょうかが、か弱い女の私は永遠に変わらない白い珠のように、あなたへの変わらぬ想いを抱き続けているのですよ)」と歌い上げる。桓武天皇は自分のこの冗談に満足して大笑いしただろうし、集まつていた貴族たちも「また陛下の悪ふざけが始まつた」と苦笑しながらもやんやの喝采を送つた、ということなのである。

これ、桓武天皇の人間性が伝わってくるようで、私の大好きなエピソードのひとつである。新しい元号の「令和」の類例がこういうところにあるというのは、なんだかとつてもほのぼのとしているように感じ、私は嬉しさを隠せないのである。

(三) 协会理事

(6)

第九回 角田文衛古代学奨励賞

板垣優河「石器使用痕からみた打製石斧の機能」

『縄文時代生業の復元に向けて』

(『古代文化』第六十九巻第二号、二〇一七年九月刊行)

本論文は、先行研究を批判的に検討し、新たに石器の機能推定のための実験データを提示するとともに、そこで得た分類基準をもとに中部地方を中心とする打製石斧の機能分類を行い、考古学的手法による縄文時代生業復元への展望を切り拓いたとして高く評価されました。



授賞式は十一月十六日(土)十四時より、京都文化博物館別館二階講義室

において執り行われました。続いて板垣優河氏による受賞記念講演「縄文時代の植物食をさぐる」が開催されました。

講演の最後に、古代文化編集委員である大野薰氏、山田邦和理事も加わり、活動発表なディスカッションが行われました。参加者約四十名。



することを主要な目的のひとつとしている。また今回のシンポジウムは、

月二十九日(月)関連事業とし開催したものである。

シンポジウムのプログラムは以下のとおりである。



の展示も予定している。



「縄釉陶器と
縄釉瓦」

「京の翠と
わざの粹」
物館で本研究の成果をもとにした
調査研究(仮)を刊行する。
また令和二年四月には京都文化博

物館で「京の翠と
わざの粹」
の司会によるフリートーク。
新田和央(京都市文化財保護課)
田中由理(元興寺文化財研究所)
白石純(岡山理科大学)
「縄釉陶器・縄釉瓦の色調分析」
「縄釉陶器・縄釉瓦の胎土分析」
新田和央(京都市文化財保護課)
田中由理(元興寺文化財研究所)
白石純(岡山理科大学)

◇シンポジウム

京の翠とわざの粹

— 緑釉陶器と縄釉瓦 — 開催

石井清司客員研究員を研究代表者

とする科学研究費助成事業基盤研究

(C)「平安期緑釉陶器・縄釉瓦の多

分野協働型研究」(平成二十八年、令和元年度)の一環として、三か年

にわたる研究成果を社会に還元する

ために実施した。なお本研究では、

当協会が昭和五十四年に発掘調査を実施した石作窯・小塩窯跡(京都市西京区大原野)の正式報告書を刊行



日 月 九 月 九 日 午 後 二 時 三十分

- ・ 「平安京周辺における緑釉陶器生産」高橋照彦(大阪大学)
- ・ 「平安前期の緑釉瓦生産」網仲也(近畿大学)
- ・ 「平安京の緑釉瓦」植山茂(古代学協会)

発行者 公益財團法人 古代学協会
604-8131 京都市中京区三条通高倉西入ル
印 刷 明文舎印刷株式会社
601-3316 京都市南区吉祥院池ノ内町一〇
電話 ○七五一一六八一一二七四一